

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名	長 崎
-------	-----

I. 学校の概要 (平成 15 年 4 月現在)

郷ノ浦町立盈科小学校									
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	3	2	15	25
児童数	72	70	79	58	64	91	6	440	

II. 研究の概要

1. 研究主題

<p>「確かな学力を身につけた児童の育成」 サブテーマ：算数科・国語科を中心とした指導法・指導体制の工夫改善を通して</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年・算数 子供たちの習熟の程度に差が出やすい教科であるため。 ・全学年・国語 本校児童の実態調査の結果から、教科を広げ学力を高める必要性があったため。

(2) 年次ごとの計画

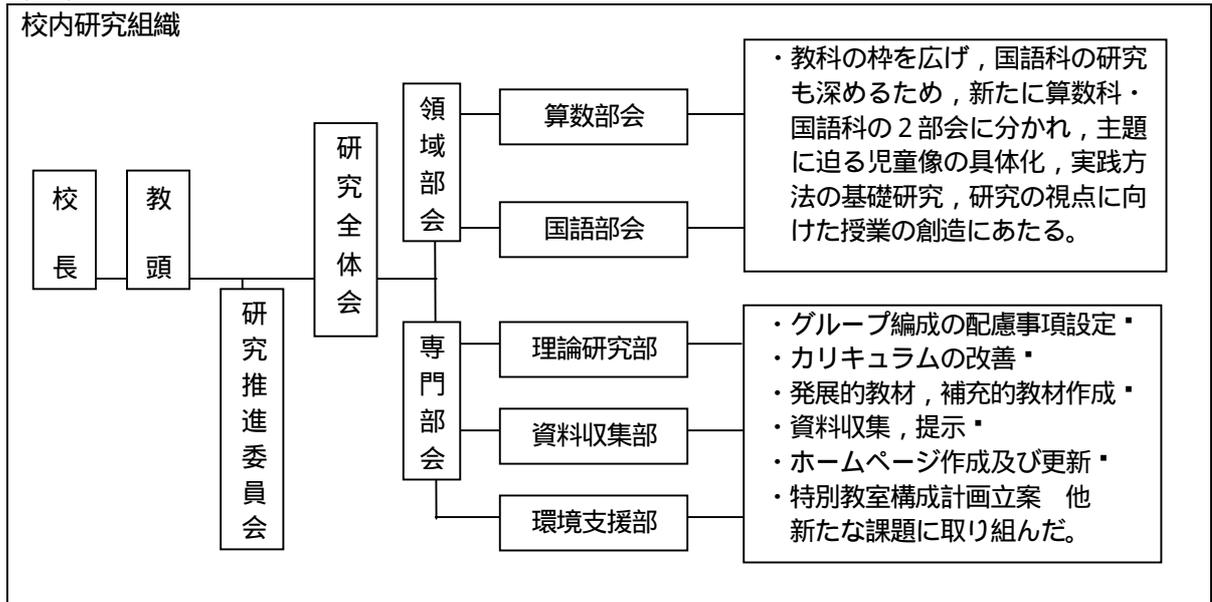
平成 14 年 度	<p>テーマ 「確かな学力を身につけた児童の育成」 サブテーマ：算数科の指導法・指導体制の工夫改善を通して 仮説 算数科の授業において、問題解決的な学習活動を展開し、ティームティーチングを中心とした少人数授業の支援の在り方を工夫することにより、子供たち一人一人に、基礎的・基本的な内容の定着と学ぶ楽しさの実感をともなった、確かな学力を育てることができるであろう。 研究内容・方法 <研究内容> ・主体的な問題の発見，課題と解決方法の把握へ導く支援 ・個を生かし，個に応じた課題追究活動の展開 <方法> ・算数科を中心に TT，少人数指導を導入した授業の実践 ・専門部会による理論研究，資料収集，環境支援の推進と全体化</p>
--------------------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ 「確かな学力を身につけた児童の育成」 サブテーマ：算数科・国語科を中心とした指導法・指導体制の工夫改善を通して 仮説 算数科・国語科の授業において、問題解決的な学習活動を展開し、個人差に応じた支援の在り方を工夫することにより、子供たち一人一人に確かな学力を育てることができるであろう。 教科の枠を広げ，国語科においても研究に取り組むため。</p>
--------------------	--

	<p>研究方法・内容</p> <p><研究内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの成果を認め合い，支え合い，高め合う学習活動への支援 ・基礎的・基本的内容定着のための指導計画の工夫 <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科においてTT，少人数指導を導入した授業の実践 ・算数科・国語科を中心とした，個人差に応じた支援の在り方の工夫 ・高学年における教科担任制による，教材研究等の充実 ・基礎的・基本的内容定着のための学習活動の日常化 ・専門部会による理論研究，資料収集，環境支援の推進と全体化
--	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学力を身につけた児童の育成」</p> <p>サブテーマ：個に応じた指導法・指導体制の工夫改善を通して 仮説</p> <p>全ての教科において，問題解決的な学習活動を展開し，個人差に応じた支援の在り方を工夫することにより，子供たち一人一人に確かな学力を育てることができるであろう。</p> <p>研究方法・内容</p> <p><研究内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な問題の発見，課題と解決方法の把握へ導く支援 ・個を生かし，個に応じた課題追究活動の展開 ・互いの成果を認め合い，支え合い，高め合う学習活動への支援 ・基礎的・基本的内容定着のための指導計画の工夫 <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科を中心にTT，少人数指導を導入した授業の実践 ・算数科・国語科を中心とした，個人差に応じた支援の在り方の工夫 ・高学年における教科担任制による，教材研究等の充実 ・基礎的・基本的内容定着のための学習活動の日常化 ・専門部会による理論研究，資料収集，環境支援の推進と全体化 <p>平成14・15年度の研究成果を総合的に継続するため。</p>
----------------	---

(3) 研究体制



III. 平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

年度初めに行った、算数科の学力テストにおける総合的な到達度評価検査結果を見ると、昨年度の実績の成果として全校的に「十分満足できる」「おおむね満足できる」子供たちの割合が、84%から92%に向上していることが挙げられる。

また、学習満足度の自己評価に関しても「楽しい」という思いが、全校的に高まっているといえる。子供たちの声からも算数や国語が楽しくなったという声が聞かれ、これまでの研究実践の成果であろうと考えている。

少人数学習に関しては、高学年では「少人数でやると少し安心するから」「恥ずかしくないから」「分かれた方が良く分かるから」「自分のペースで進めるから」といった声が多く、よさに対する理解が深まっていると考えられる。教科担任制に関しても、高学年の子供たちは、好感を持って受け止めているようである。

2. 今後の課題

高学年では、教科担任制のため授業の入替が自由にできないので、授業をより計画的に行うことが必要であった。今後いっそう見通しをもって授業計画を立てることに取り組んでいきたいと考える。

子供たちの中には、まだまだ授業が楽しくないという子供もいる。1番の理由は「分からないから」である。そこで、いっそう個人差に応じた指導を工夫していきたいと考える。

さらに、「家庭学習の在り方」、「話し合いにおける教師の効果的な発問、助言の在り方」、「授業における練習問題の場の確実な設定」、「補充・発展の学習の在り方」といったことが課題であるという認識に立ち、子供たちに確かな学力を身に付けさせるため、研修を深めていきたい。

IV. 学力把握のための学校の取組

学力検査の実施

- ・国語科、算数科の学力の定着を年度ごとの比較としてとらえるため全校的に1学期に行っている。本年度は3学期にも行い、今後3学期に定期的に行うように変更した。

学習の満足度調査

- ・満足度の調査により、学ぶ楽しさの要因と楽しくない原因を把握し、支援に生かすため、毎学期末に調査を行っている。

V. フロンティアスクールとしての成果の普及

- ・授業参観における保護者への説明
- ・PTA運営委員会、役員会等での説明・学校便りでの説明
- ・研究発表会（平成15年11月6日、盈科小学校にて）
- ・研究授業公開の案内・研究紀要の郡内各校への配布
- ・HPによる研究内容の公開
- ・フロンティアティーチャーとして、「時事通信」に研究の取組の一端を掲載。数教研における県大会において発表。壱岐郡教育課程研修会において取組の発表。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | |
|----------------------|------------------------------|---------------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | ✓ 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | 6学級以下
✓ 13～18学級
25学級以上 | 7～12学級
19～24学級 |
| 【指導体制】 | ✓ 少人数指導
✓ 一部教科担任制 | ✓ T・Tによる指導
✓ その他 |
| 【研究教科】 | ✓ 国語 社会
生活 音楽
体育 その他 | ✓ 算数 理科
図画工作 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ✓ 有 | 無 |